# 観光地域づくり法人形成・確立計画

記入日:令和7年1月10日

# 1. 観光地域づくり法人の組織

申請区分	広域連携DMO·地域連携D	MO·地域DMO	
※該当するものを 〇で囲むこと			
観光地域づくり法	(一社)野沢温泉マウンテンリゾート観光局		
人の名称			
マネジメント・マ ーケティング対象	長野県下高井郡野沢温泉村		
とする区域			
所在地	長野県下高井郡野沢温泉村プ	大字豊郷 9780 番地 4	
設立時期	令和5年1月23日(合併し	た一社野沢温泉観光協会は平成 26 年~)	
事業年度	4月1日から翌年3月31日	までの 1 年間	
職員数	20人【常勤8人(正職員4.	人・出向等4人)、非常勤12人】	
代表者(トップ人材:法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者)	(氏名) 小田切 美幸「専従」 (出身組織名) (一社)野沢温泉観光協会	<ul> <li>・(一社)野沢温泉観光協会に前身組織から15年間勤務</li> <li>・村の観光に関する業務全般に広く従事し、村内外に人的ネットワークを持つ</li> <li>・宿泊施設案内の他、イベントやまちづくりを中心とした業務を通した観光地域マーケティングを実施</li> </ul>	
データ分析に基づ いたマーケティン グに関する責任者 (CMO: チー フ・マーケティン グ・オフィサー	(氏名) 小田切 翔一「専従」 (出身組織名) (一社)野沢温泉観光協会	・(一社)野沢温泉観光協会に前身組織から3年間勤務 ・村の観光に関する団体と連携し、各種プロモーションに関する業務に従事 ・村内主要5団体を取りまとめた、マーケティング戦略の立案と、プロモーションへの対応	
財務責任者 (CFO: チー フ・フィナンシャ ル・オフィサー)	(氏名) 笹岡 俊介 (出身組織名) 野沢温泉村観光産業課商工 観光係	・野沢温泉村に16年間勤務 ・観光産業課において、村の主要産業である観光 事業を多様なステークホルダーとともに自治体 職員として推進 ・DMOとしての持続可能な運営のため、運営収 支や財源確保に関する検討を地方公共団体と連 携して実施	
各部門(例:プロ モーション)の責 任者(専門人材)	(氏名) 高澤 公治 (出身組織名)	・株式会社野沢温泉において、19 年間勤務	

	Ald S. makes and of	
	<b>(株)野沢温泉</b>	<ul><li>・日本を代表するスノーリゾートの広報営業の責任者として国内外に対するブランディング・プロモーション等を展開</li><li>・地域におけるネットワークを活用し、地域に密着した効果的な情報発信を実施</li></ul>
専門家アドバイザ 一(外部人材)	(氏名) 山田 桂一郎 (出身組織名) JTIC. SWISS 代表	・観光庁広域周遊観光促進のための専門家 ・DMO 設立/運営のほか、誘客戦略策定や域内経済循環など観光に関する多くの分野に対して高い専門性を有する ・これまで気仙沼 DMO (気仙沼地域戦略) への支援など、多数の DMO アドバイザー実績あり ・Mt. 6 顧問や (一社) 日本スノースポーツ&リゾーツ協議会の参与としても活動しており、全国のマウンテンリゾートへのインバウンド推進に取り組む
連携する地方公共 団体の担当部署名 及び役割	野沢温泉村観光産業課(行政	文全般)
連携する事業者名及び役割	株式会社野沢温泉 (スキー場野沢温泉旅館ホテル事業協同野沢温泉商工会 (小売等事業のざわ温泉交通株式会社 (2	美者): 交通事業も実施
官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	活用した事業者)、野沢温泉商工会(小売等事業者)・観光資源の関係者、宿泊野毎週開催(月4回定例開催にて開催・交通事業者であるのざわるポーツクラブである野沢温ト・祭り開催や、各種実証を考〕登録要件 ①取締役、理事など観光地域文化、スポーツ、農林漁業	会社野沢温泉(スキー場運営等の地域観光資源を 泉旅館ホテル事業協同組合(宿泊事業者)、野沢温 の代表者が参画 事業者、商工会、行政が参画し、「経営企画会議を (1)、また5団体の代表による理事会を月に1回定例 温泉交通(株)や、自治組織である野沢組、地域ス は泉スキークラブなどの村の主要団体ともイベン 事業実施、冬シーズン夏シーズンの切り替わり時 はづくり法人の意思決定に関与できる立場で行政、 は、交通等の幅広い分野の関係団体の代表者が参画 算して行政や関係団体をメンバーとするワーキング
地域住民に対する 観光地域づくりに 関する意識啓発・ 参画促進の取組	・月次による DMO の会報の暦 ・週次による DMO からの情幸 ・LINE ビジネスを活用した。 ・ケーブルテレビによる DMO	記信 限配信 双方向コミュニケーションの実施 ) の活動説明や報告の実施 啓発のための勉強会、説明会、意見交換会やシンポ

法人のこれまでの	【活動の概要】	
活動実績	事業	実施概要
	情報発信・	〇宣伝広告事業
	プロモーシ	・各種宣伝キャンペーン、SNS 広報宣伝等
	ョン	DOD 名古屋(名古屋市)等への参画
		   ○観光PR事業
		○観元PK事業  ・マスコミ招待会事業
		村内マスコミ懇談会(村内)
		大阪マスコミ懇談会(大阪市)
		長野マスコミ懇談会(長野市)
		東京マスコミ懇談会(東京都)
		•取材対応/番組出演
		SBC/NHK BS/むさしの FM/TSB/NHK 長野/BS 朝日取材対応
		・視察、ゼミ等対応
		琉球大ゼミ
		・プレスリリースの発行
		マスコミ関係者、旅行代理店、スポーツ店等関係者約150名に
		毎月「野沢温泉ニュースリリース」を発送
		・SNS での情報発信
		「NOZAWARI クーポン第2弾」など
		- 長野県観光情報センター等へのパンフレットの提供
		│ │○JA 観光振興協議会連携
		・JAながの みゆき観光振興協議会
		・「地産地消の美味しい宿」誘客事業 東京都稲城市南山農産物
		直売所ほのか
		│ │○広域観光事業
		・北信濃観光連盟
		・ふるさと街道協議会
		・JR西日本スノーリゾート受入観光地協議会
		・信越9市町村広域連携会議
		│ │○物品販売事業
		・オリジナル商品販売:岡本太郎氏の「湯」文字入りグッズや絵葉
		書等の店頭及び ECサイトでの販売と会員施設等への卸事業
		・集印帳販売:集印巡り(集印帳販売)については、村内の複数
		拠点を巡る行動を誘発、コロナ禍で販売数が減っていたものの、
		年間を通して楽しめるものとして人気
	₩ 1 +== 1+	・EC サイト販売:節ごとに厳選した商品を販売
	受入環境の	〇国内旅行業事業
	整備	・会員宿泊施設への斡旋事業
		延べ 5,000 人泊以上のお客様を宿泊施設にご案内 ・自然体験事業:トレッキングなどの「自然体験」と、つ
		・日然体験事業:トレッキングなどの「自然体験」と、コー    る細工体験などの「ふるさと体験」の2つの構成で実施
		る柵工体線などの「ふるさと体験」のとうの構成で実施
		② 八坂小学校移動教室

- ③ ほっとパル自然体験ツアー
- ④ 中央高等学院スキー・スノーボード教室
- 旅行商品販売事業:各種商品の販売

### 〇インバウンド事業

- ・インバウンド向けリフトチケット取扱い
- ・観光協会ホームページ英語版の管理、更新
- ・外国人個人客/外国旅行会社宿泊等問い合わせの対応
- ・海外メディア取材対応
- ・外国メディアの出版物や掲載記事の校正、情報提供
- ・インバウンド部会の開催:計6回の実施

### 〇観光イベント事業

- ・野沢温泉での滞在客数(宿泊客の確保)をいかに伸ばすか という目的に沿って、イベントを開催
- ・新型コロナウィルスの感染拡大の為、中止となったイベントもあったが開催したイベントについては、感染対策の上 実施
- ① 第17回野沢温泉菜の花パノラママーチ
- ② つつじ祭り
- ③ たけのこまつり
- 4 納涼盆踊り
- ⑤ 野沢温泉のざわな蕪四季會社
- ⑥ 2023お客様感謝祭
- ⑦ 野沢温泉はとぐるまカップ・DER WEISSE RAUSCH 大会
- ⑧ 2023お客様感謝祭
- ⑨ 冬の灯明夜祭り

### 〇受託契約業務事業

- ・リフト券販売事業
  - 一般販売額:前年対比35.8%

会員施設割引販売額:前年対比 123.0%

インバウンド券

手数料:前年対比 144.1%

- •宿泊補助券対応業務等
- ・全国中学校スキー大会支援事業:大会参加者や関係者に対する 6,515 人泊を対応
- •その他受託業務

長電バス回数券販売

ふるさとの湯回数券販売

宅急便取扱業務

各種スキー大会開催に伴う宿泊手配受託業務

### ○駐車場管理運営事業

・中央ターミナル及び新田ターミナルの管理運営 合計約13,500台の利用(普通車、大型車、バイク)

〇魅力創出:環境保全事業

・まちづくり関連公園事業等

・クリーンキャンペーン(笹沢バス停~中尾案内所/役場~坪山)

### 〇その他事業

- ・野沢温泉村イベント受入実行委員会
- ・日本ウオーキング協会/長野県ウオーキング協会/関東甲 信越マーチングリーグ関係
- ・イベントスケジュール調整会議
- ·野沢組惣代/湯澤神社氏子惣代関係
- ・各種スキー大会等関係
- 村内各団体関係会議

### 観光資源の 磨き上げ

### 〇芸能保存会活動事業

- ・道祖神太鼓保存会活動支援 延べ 11 日の各種行事への出演 道祖神コンサートの開催 野沢温泉スパリーナ国際会議場での練習
- ・小唄保存会活動支援 延べ 16 日の各種行事への出演 林業センターでの練習

### 〇令和5年ウェルネスツアー事業

- 観光庁調査事業
- ・サイクルツーリズムを軸にしたウェルネスツアーの造成
- デジタルマップの作成
- ・グリーンシーズンの PR 活動

### 〇ガストロノミー推進事

- ・食をテーマとした観光庁調査事業の実施
- ・ガストロミーラボの立ち上げにより、村内シェフ村外シェフの6名によるコラボレーションを通し、ジビエを中心としたオリジナルコースを構築
- ・地域に滞在しながら食材確保、調理、食事の工程を通し、 命の循環を体験できる高付加価値化ツアーの検討と、20人 程度のモニターツアーの実施



ローカルジビエのコース

野沢菜収穫体験



シェフ等のラボ活動

湧水を活かしたクラフトジン試飲

### 〇ウェルビーイング推進事業

- ・スポーツとワーケーションを組み合わせた、スポーツワーケーション等の商品開発を実施
- ・東京大阪から 12 名のビジネスマンに来村いただき、2 泊3 日ツアーを実施
- ・企業研修を軸とした、健康経営や人的資本経営に注力している企業に対するサービスとして、より高付加価値化、有効化させることで、グリーンシーズンの商品として展開



チームでのアイディエーション

朝の神社ヨガ



紅葉のスキー場でアクティビティ

ダウンヒル MTB の共体験

### ○100 周年記念カード発売事業

- ・リフト券がたの記念カード販売事業、リフト券としての委託販売とチャージ手数料ビジネスを連動させた事業としてスキー場と連携しながら構築
- ・関係村民作りを目指した事業として、カード所有者には村 民割のようなサービスを多店舗で展開



100周年記念カードの特典

## 100周年記念カード

### 限定3,000枚!1枚11,000円(税込)

野沢温泉スキー場の開場100周年を記念して制作した、 特別なリフト券ICカードです。

野沢温泉への愛情、そして次の100年への貢献に関わる 意思の証として発行しています。

このカードは貴 方 だ け の カードであることを示すシ リアル番号が印刷されています。

周りの人々へ野沢温泉の楽しさ、居心地の良さを共有 し、伝導していただくために記念カード保有者には関 係村民としてさまざまな特典が提供されます。

購入する

### 飲食店

- ・会計時に5%OFF
- ·一部商品10%OFF
- ・カード提示で全品100円引き ・ローカル価格での提供 など

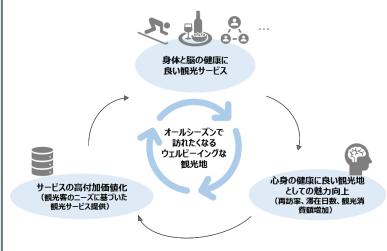
### 宿泊施設

- ・夕食時にワンドリンクサービス
- ・自家栽培コシヒカリ2キロプレゼント・季節のお土産プレゼント など

### アクティビティその他

- ・カード保有者の同行者は夏のゴンドラ 10%OFF
- ・ローカル割引対応
- ・アクティビティ10%OFF など

- 〇ブレインフィットネス推進事業
- ・脳科学の観点から観光客のウェルビーイング向上への取組 を実施
- ・一般社団法人ブレインインパクトと連携しながら、野沢温泉村での、豊かな自然や食文化、健康的な生活様式等の地域資源を生かした、観光客のウェルビーイング向上に向けたモニタリングツアーの実施、アンケート調査の実施



サービスの高付加価値化を軸としたサイクルイメージ

- 〇ウェルネス・サイクルツーリズムによる地域消費拡大 (DMO)
- ・Well-being な社会の実現に向けて、移動×空間価値の向上を 目指すコンソーシアム「WaaS 共 創コンソーシアム」に参画
- ・JR東日本等と連携した、サ地域共創「ウェルネス・サイクルツーリズムによる地域消費拡大の東京、東京東際東佐





### 【定量的な評価】

- 〇情報発信・プロモーション
- ・村内、県内、都市部に対する計4回の対面型でのPRの実施
- ・テレビ局7回、ラジオ局1回の、計8回のマスメディア対応を実施
- · SNS、WEB による情報入手者の増加
- SNS を情報入手源とする割合:55.7%

WEB を情報入手源とする割合: 85.2%

### 〇受入環境の整備

- ・延べ 5,000 人泊以上のお客様の宿泊斡旋
- ・9回のイベント事業の実施
- ・合計約 13,500 台の駐車場利用(普通車、大型車、バイク)への運営対応 〇観光資源の磨き上げ
- ・観光庁の2つの調査事業の実施
- ・官民連携体制による2つの先進事業の検討及び、モニターツアーの実施

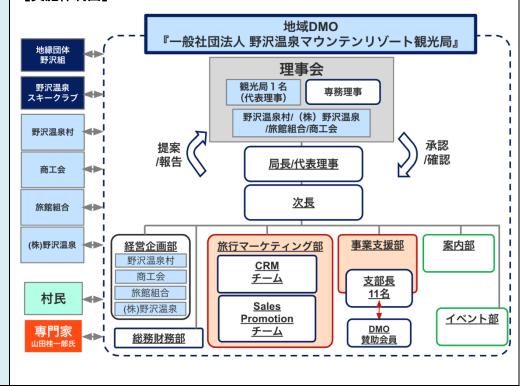
### 実施体制

※地域の関係者と の連携体制及び地 域における合意形 成の仕組みが分か る図表等を必ず記 入すること (別添 可)。

### 【実施体制の概要】

合併する(一社)野沢温泉観光協会が母体となり、メンバーには、行政、宿泊業者のほか、アクティビティー(スキー場)、商工業等、多様な関係者が参画し、また専門家アドバイザーを設置した官民が密接に連携した運営を実施

### 【実施体制図】



# 2. 観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域



### 【区域設定の考え方】

- ・野沢温泉村は「湯山村」として、鎌倉時代中期の文永9年(1272)から歴史的な資料としての記録が残っており、江戸時代初期にはすでに24軒もの宿屋があったといわれ、以降も現在に至るまで温泉地として栄えてきた
- ・大正 12 年に野沢温泉スキー倶楽部が発足し、スキー場の開発とスキーヤーの誘致を行い、国内最大級のスキー場である野沢温泉スキー場を有する区域となっている
- ・また地形的には東に三国山脈の傍系としてそびえる毛無山(1,650m)を頂点として、西に流れる千曲川に傾斜し、村内に流れる一級河川の赤滝川、湯沢川、池の沢川はいずれも毛無山に源を発して千曲川に注いでおり、山(スキー場)に囲まれた谷(温泉街)地形に観光資源が集中し、周辺自治体から空間的にやや隔てられた位置となっている
- ・上記のような理由から、歴史的な背景や地域の一体性をもとに、観光客の視点より野沢温泉村の村域全体をDMOがマーケティング・マネジメントする区域として設定する

## 【観光客の実態等】

- ・令和5年度の観光入り込み客数は71万人、延べ宿泊者数56万人、消費額44億8千万円
- ・観光入込客数のうち、毎年50%以上がスキー観光により構成されており、一方で温泉観光を中心としたスキー観光以外の観光入込客数は年間30万人前後で安定している
- ・パウダースノーへの関心等によるインバウンドの増加により、減少していたスキー場利用者が増加 に転じたが、新型感染症の影響で現状は不安定な動向となっている

### 【観光資源:観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

- 温泉
  - ▶ 村内ある 13 個所の外湯(湯仲間による管理)は観光客も無料で利用できる。
  - ▶ 温泉旅館では内湯を楽しむことができる
- ▶ 有料での日帰り温泉である「麻釜温泉公園 ふるさとの湯」
- ▶ 村内に複数の足湯があり、温泉卵の体験等も実施できる
- ▶ 野沢温泉スパリーナでは、展望露天風呂・プール・サウナの他、レストラン等を設置
- スキー場
- ▶ 最長滑走距離は日本のスキー場の中でも最長の 10km
- スキー場総面積は 785ha(総コース面積 297ha)
- ▶ ゴンドラ2本、リフト21本による36コース
- ▶ 長坂センターハウス、レストハウスやまびこ、日影インフォメーションセンター等の大型施設 の他、複数のレストラン等を配置
- ・イベント
- ▶ 春のイベント:野沢温泉菜の花パノラママーチ、つつじまつり、たけのこまつり
- ▶ 夏のイベント:マウントトレイル、納涼盆おどり、湯沢神社例祭、北信州ハーフマラソン
- ▶ 秋のイベント:道祖神太鼓コンサート「打楽」、のざわな蕪四季會社蕪主総会
- ▶ 冬のイベント:オープニングイベント、カウントダウン、道祖神祭り、冬の灯明夜まつり
- 観光施設
- ▶ 歴史:湯沢神社、薬王山健命寺、千仏堂、温泉薬師堂、つつじ山公園・百番観音
- 文化:日本スキー博物館、おぼろ月夜の館(斑山文庫)、岡本太郎作品、道の駅野沢温泉
- ▶ 自然:麻釜(おがま)、見晴台、巣鷹湖
- アクティビティー等
- ▶ 野沢菜収穫/漬け込み体験、伝統工芸「つる細工」体験、湯葉づくり体験、きのこ狩り体験、魚のつかみ取り体験、集印巡り、野沢温泉朝市
- ▶ スキー/スノーボード、スノーシューイング、SUP、カヌー、MT バイク、トレッキング、ヨガ、ボルダリング、キャンプ、ジップスカイライド

### 【宿泊施設:域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

施設数 218 件、部屋数 2,028 部屋、収容人数 6,827 人

### 【利便性:区域までの交通、域内交通】

- ・東京:車で約3時間20分、電車・バスで約2時間25分
- ・名古屋:車で約4時間、電車・バスで約4時間
- ・大阪:車で約6時間、電車・バスで約4時間10分
- ・金沢:車で約3時間15分、電車・バスで約1時間40分
  - ※電車は北陸新幹線等で飯山駅まで移動、村までは直通バス「野沢温泉ライナー」で約25分

### 【外国人観光客への対応】

- ・観光協会内にインバウンド部会を設置、宿泊施設における滞在の利便性・快適性向上を目指し、設備の充実の他、長野新潟スノーリゾートアライアンスと連携し、現地セールス等も実施
- ・キャッシュレス決済の導入 (講習会等の実施)、海外カードに対応した ATM の導入
- ・インバウンド向けの英語表記ホームページの作成・運用
- ・外国人向けインストラクターによるレッスン等の実施

# 3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	来訪者の消費活動の動向を分析	長野県観光地利用者統計等を活用
	し、消費単価向上に繋げるため	して実施
		アンケート調査を実施
延べ宿泊者数	宿泊者数の推移を把握するため	長野県観光地利用者統計等を活用
		して実施
来訪者満足度	来訪者の満足(不満足)に繋がっ	アンケート調査を実施
	ている要因を分析し、戦略立案に	
	繋げるため	
リピーター率	リピーター顧客の動向を把握し、	アンケート調査を実施
	戦略立案に繋げるため	
WEBサイトのアクセス状	地域に対する顧客の関心度や施策	グーグルアナリティクスを活用し
況	の効果等を把握するため	て実施予定
再訪意欲度	再訪意欲が高い人から、リピータ	アンケート調査を実施
	一につながる要素を抽出するため	
住民理解度	DMO の活動に協力いただき、より	アンケート調査を実施
	一層地域経済循環を高めるため	

### 4. 戦略

## (1)地域における観光を取り巻く背景

### 背景と課題①:マーケティング戦略

- ・各団体間での調整会議等は実施されているが、村内の団体や事業者が、村の観光戦略を共有し同じ 方針(KGI)で目標(KPI)への取り組みを行えていない
- ・宿泊者データ、スキー場利用者データ、イベント参加者データ等を各団体がバラバラに取得しており、活用がなされていない

### 背景と課題②:役割分担

- ・情報発信や広報 PR などの実施が、各団体で重複している(パンフレット、ホームページ、動画配信等)
- 各団体における非効率性と、来村者にとって複数の情報源があると複雑かつ不便

## 背景と課題③:新規取組

- ・社会の変化が激しい中で、それぞれの団体内に収まってしまい包括的な対応を行うことが困難
- ・時代に即した村全体の観光のあり方を継続的に改善していく検討を行う主体が無い

### 背景と課題④:財源調達

- ・スキー場はリフト券売上が大きいが、その他の団体は会費等の収入が中心となっており、村における新たな観光事業への投資は難しい
- ・村の予算としては、観光分野にも多くを支出しているが、公平性平等性の観点から配慮が必要背景と課題⑤:人材確保・育成
- ・明確な季節性のある地域における観光事業であることから通年での安定的な人材雇用が難しい
- ・デジタル化への対応が求められているが、データ分析を行う人材を各組織で確保することが困難

# (2)地域の強みと弱み

(2)	地域の強みと羽み	
	好影響	悪影響
	強み (Strengths)	弱み (Weaknesses)
	〇日本を代表するスノーリゾート	〇スキー場や村内施設の空間的キャパシティ
	・世界でも有数のパウダースノー環境	上限
	・国内最大級の滑走距離を誇る施設規模	・スキー場来場者過多の際のサービスレベルの低
	・新型ゴンドラ整備等による設備投資	下 (年間 50 万人が上限目安)
	・関東圏、関西圏からの新幹線アクセス	・宿泊施設の減少や大規模宿泊施設が無い
	〇外湯文化を体験できる温泉街ブランド	・村内道路が狭く、大型バスが通行できない
	・13 の外湯を誇るコンパクトな温泉街	・スキー場他、村内施設の老朽化
	・村の象徴的な景観としての麻釜や大湯	〇データ活用、デジタルマーケティング対応
	・村内の飲食、宿泊等機能に対する新規投資事	の遅れ
	業	・宿泊者、スキー場利用者、イベント参加者等の
	<u>〇四季の魅力(自然、歴史文化)</u>	データが各団体にバラバラに存在
	・心身の豊かさの体験:自然、季節、スポー	・データを活用したマーケティングやブランディ
内部	ツ、温泉	ングの不足
環境	・野沢菜漬けを代表とする発酵食品、お酒、ジ	・観光 DX を推進する専門人材の不足
	ビエ等によるガストロノミー	○村の統一的な観光戦略の不足
	・火祭りを代表とする伝統行事や地域イベント	・グリーンシーズンのコンテンツ不足による観光
	〇地域特性のある人材ネットワーク 	客の来村時期の偏り
	・野沢組惣代(自治組織)等の活動による密なローカルネットワーク	・旧来型観光からの「新たな旅のスタイル」への
	ローカルネットワーク  ・ウィンタースポーツのアスリートネットワー	変革意識が希薄
	・ ヴィンヌースホーラのテスサードネッドラー   ク	・新たな観光事業実施に対する財源調達手法不足
	~  ・スポーツアクティビティ事業者	○観光事業実施体制の脆弱性 □ ははは、11 ませんはの短兆のカリナカがほかに
	│ ・村の魅力に引き付けられた国内外からの移住	・時代に即した村全体の観光のあり方を継続的に 改善していく検討主体が無い
	者	・観光関係者の役割が重複している項目がある
		(ブランディング、広報、PR等)
		・通年の雇用不安定や、人口減少・少子高齢化に
		よる働き手の不足
	機会 (Opportunity)	脅威(Threat)
	〇豪州やアジアを中心としたインバウンド	〇社会的な変動影響に脆弱(感染症、災害
	観光客の増加	等)
外部	〇ワーケーションやグランピング等の新た	○人口減少等に伴うスノースポーツ人口の減
環境	な旅のスタイルの増加	少
	OSDGs・ウェルビーイング等を含めた自然	○気候変動による降雪不足リスクの高まり
		○ 以供を判による呼当个たりヘンの向まり
	環境への関心増加	

# (3) ターゲット

〇第1ターゲット層(スノーシーズン)

欧米豪・アジアのスノーアクティビティ関心層

# 〇選定の理由

- ・パウダースノーを中心にスノーアクティビティに対する魅力に対し、オーストラリアからの来村者が国内でも特に多くインバウンドにおける約55%を占めている(村内宿泊事業者への個別調査である「スノーシーズン野沢温泉外国人宿泊客調査」より)、調査結果から複数年の傾向が把握できており、一定のリピーター率を実現できている
- ・インバウンド観光客は滞在日数も長く消費単価も高いため、今後も野沢温泉独自の強みを生かした コンテンツ造成やマーケティングの実施により、マーケットの拡大が期待できる

### 〇取組方針

- ・来訪者満足度調査から、リピーター化につながる要因を分析し、ソフト・ハードの両面からコンテンツの磨き上げ等の事業を展開する
- ・近隣リゾートにおけるインバウンド状況等から、マーケットの拡大が期待できる地域に対してのプロモーションを展開する

〇第2ターゲット層(グリーンシーズン)

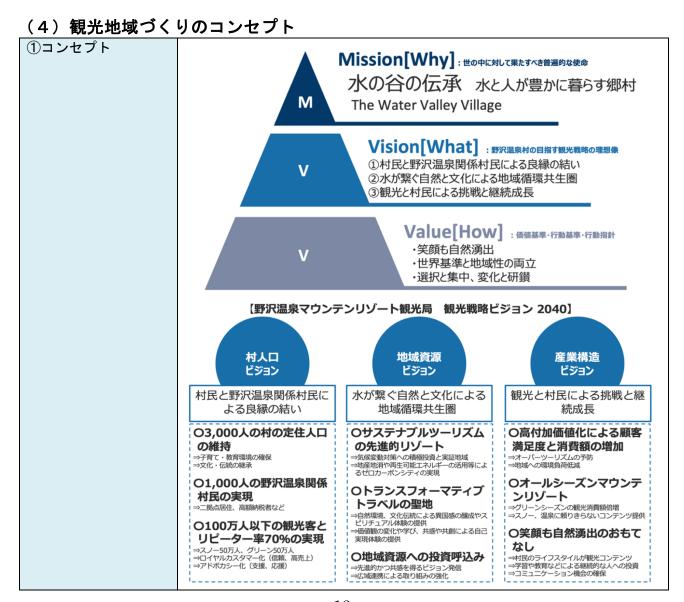
東名阪を中心とした都市部のファミリー層、アクティブシニア層

### 〇選定の理由

- ・北陸新幹線を中心とした交通アクセス性の高いことから、東名阪等の都市部からの来村者割合が非常に高く国内旅行者の役75%を占めている(来村観光客へのアンケート調査である「野沢温泉滞在アンケート」より)新たな旅スタイルに興味を持つ層に対するマーケットの拡大が期待できる
- ・地域のコンテンツを活用し中長期的に地域に滞在いただくことで、消費単価の向上や、地域への愛着度の醸成が可能となり、リピーター率の向上が期待できる

### 〇取組方針

- ・四季の魅力を再整理・再発信することにより、スノーシーズンに頼らないオールシーズンのマウン テンリゾートとしてブランディングを実施する
- ・デジタルマーケティングを取り入れ、顧客情報を連携させながらニーズに合わせた情報発信等のマ ーケティングを実施する



# ②コンセプトの考え方 ・自治体村名に唯一「温泉」の名称が含まれる温泉、世界的に評価の高いパウダースノー、湧き水などの地域独自の「水資源」と、そこから生まれる入浴・湯治、スノーアクティビティ、飲食(飲料水、地酒、クラフトビール、クラフトジン、お米、野菜、郷土料理)などの活動が村民の営みとして歴史的に連綿と伝承されており、暮らすように旅ができる点からも、中長期滞在に適している・これからの世界において豊かな水文化とともに暮らすことができる地域自体が、非常に貴重なエリアになることが想定され、それらの暮らしに観光客が入り込むこと自体を主要観光コンテンツと位置付けることで、世界的な観光競合に対しても差別化を図る・地域の強みを包括する概念となる水と、これからの世界的な社会変化を踏まえたコンセプトとした

# 5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、 プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との	・「DMO経営企画会議」を月に4度開催:事業企画の他、DMOの各
共有   ※頻度がひかて トラ記 ]	部の取り組みに対して参画4団体による検討を実施
※頻度が分かるよう記入 すること。	・必要に応じ、検討分科会を月に2度程度開催:現在は総合プロモーションのテーマに対する検討を実施
	・DMOが主催する地域内事業者による意見交換等のコミュニケーショ
	ンの場を年に複数回設ける
	・観光 DX への個々の事業者への支援・相談の対応や、勉強会の実施
	・DMOのミッション・ビジョンを明確化し、地域内関係者に説明を行
	うとともに、内外に向けて情報発信することで共通した認識の下での
 観光客に提供するサービ	ブランディングに繋げる
スについて、維持・向上・	・飲食店や宿泊施設をはじめとする地域が提供する観光サービスに対す
評価する仕組みや体制の	る来訪者満足度のフィードバック
構築	・観光客に対する人材確保や育成に関する取り組みの地域としての実施
観光客に対する地域一体	・主要コンテンツが統合されたホームページによる一元的な情報発信・
となった戦略に基づく一	プロモーションの実施
元的な情報発信・プロモー ション	・地域内のアクセス性の高い場所における、来訪者に対する観光窓口案
	内の実施
	・DMOが行う新規事業や実証事業に対する提案を募集し、連携の上で
	の事業実施(村内事業者を中心とするが、村外事業者からの提案も受
	け付ける)

# 6. KPI (実績・目標)

# (1) 必須 K P I

		2021	2022	2023	2024	2025	2026
指標項目		(R3)	(R4)	(R5)	(R6)	(R7)	(R8)
		年度	年度	年度	年度	年度	年度
	目	_	4, 500	4, 500	5, 000	5, 500	6, 000
●旅行消費額	標	1	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
(百万円)	実	2, 920	3, 687	4, 483			
	績	(-)	(-)	(-)			
	目	_	500	500	600	700	700
●延べ宿泊者数	標	<del>-</del>	(10.0)	(10.0)	(20. 0)	(30. 0)	(30.0)
(千人)	実	364	458	560			
	績	(1. 1)	(-)	(-)			
	目	_	88	89	99	99	99
●来訪者満足度	標	<del>-</del>	(88)	(89)	(99)	(99)	(99)
(%)	実	_	_	98. 5			
	績	(-)	(-)	(99.0)			
	目	_	60. 0	65. 0	80.0	80. 0	80. 0
●リピーター率	標	_	(60. 0)	(65.0)	(40.0)	(45. 0)	(50.0)
(%)	実	_	_	84. 6			
	績	(-)	(-)	(36. 9)			

### 目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

### 【検討の経緯】

・関係団体による検討協議会において、長野県観光関連統計等を参照し設定した

### 【設定にあたっての考え方】

- ●旅行消費額
- ・長野県観光関連統計等の動向や社会情勢を踏まえ決定
- ・新型コロナウィルス感染症拡大の影響により、大幅に落ち込んだ観光需要の回復を考慮

# ●延べ宿泊者数

- ・長野県観光関連統計等の動向や社会情勢を踏まえ決定
- ・新型コロナウィルス感染症拡大の影響により、大幅に落ち込んだ観光需要の回復を考慮

### ●来訪者満足度

- ・毎年1%ずつの上昇を目標とする
- ・新型コロナウィルス感染症拡大の影響により、大幅に落ち込んだ観光需要の回復を考慮

### ●リピーター率

- ・将来的なリピーター率目標を70%とし、毎年5%ずつの上昇を目標とする
- ・新型コロナウィルス感染症拡大の影響により、大幅に落ち込んだ観光需要の回復を考慮

## (2) その他の目標

		2021	2022	2023	2024	2025	2026
指標項目		(R3)	(R4)	(R5)	(R6)	(R7)	(R8)
		年度	年度	年度	年度	年度	年度
●WED +L / L Φ	目	_	_	_	250, 000	300, 000	350, 000
●WEB サイトの	標	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
アクセス状況 (PV)	実	_	_	_			
(FV)	績	(-)	(-)	(-)			
	目	_	_	_	99	99	99
●再訪意欲度	標	(-)	(-)	(-)	(95)	(95)	(95)
(%)	実	_	_	99. 5			
	績	(-)	(-)	(94. 5)			
	目	_	_	_	85	90	95
●住民理解度	標	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
(%)	実	_	_	_			
	績	(-)	(-)	(-)			

## 指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

### 【検討の経緯】

・関係団体による検討協議会において、村の観光指標としての重要性を総合的に判断して設定した

### 【設定にあたっての考え方】

- ●WEB サイトのアクセス状況
- ・情報入手の最重要項目として設定、宿泊者の50%利用を目標値として設定 (スキー場のHPとの統合ができた場合は、目標値の考え方の変更が必要)
- ・Google アナリティクスにより把握
- ・AIDMA モデルをベースとしたマーケティングにおける分析に活用

### ●再訪意向度

- ・リピーター率の関連項目として設定
- ・DMO が独自に集計する QR コードを活用したアンケートにより収集
- ・ターゲット層に対する分析へと活用

### ●住民理解度

- · DMO の活動において、住民からの理解度は活動の有効な実施において非常に重要となることを考慮
- ・DMO の立ち上がり段階であり、観光協会との合併一本化に伴う住民の不安等も考慮
- ・小規模事業者が多数集まっている、また、村自体の主要産業が観光であることから、住民の理解度 の向上が、地域の活性化に直結していることを考慮

# 7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

# (1) 収入

年(年度)	総収入(円)	内訳(具体的に記入すること)
2021 (R3)	79,006,624(円)	【会費】12,598,750
年度		【事業収益】27,222,506
		【市町村からの補助金】33,696,000
		【都道府県からの補助金】0
		【負担金収入】1,957,891
		【寄付金収入】310,604
		【雑収益】3,220,487
2022 (R4)	101,482,434(円)	【会費】12,488,750
年度		【事業収益】32,932,650
		【市町村からの補助金】40,466,000
		【都道府県からの補助金】6,799,544
		【負担金収入】1,957,891
		【寄付金収入】573,721
		【雑収益】6,263,878
2023 (R5)	90,693,000 (円)	【会費】12,543,000
年度		【事業収益】41,600,000
		【市町村からの補助金】28,066,000
		【都道府県からの補助金】5,954,000
		【負担金収入】1,957,000
		【寄付金収入】271,530
		【雑収益】299,000
		【観光庁等における調査事業等】22,124,000
2024 (R6)	90,752,000 (円)	【会費】12,450,000
年度		【事業収益】50,100,000
		【市町村からの補助金】28,000,000
		【都道府県からの補助金】0
		【負担金収入】2,000,000
		【寄付金収入】1,000
		【雑収益】1,000
		【観光庁等における調査事業等】0
2025 (R7)	130,502,000 (円)	【会費】12,500,000
年度		【事業収益】38,000,000
		【市町村からの補助金】28,000,000
		【都道府県からの補助金】0
		【負担金収入】2,000,000

		【寄付金収入】1,000
		【雑収益】1,000
		【観光庁等における調査事業等】50,000,000
2026 (R8)	130,502,000 (円)	【会費】12,500,000
年度		【事業収益】38,000,000
		【市町村からの補助金】28,000,000
		【都道府県からの補助金】0
		【負担金収入】2,000,000
		【寄付金収入】1,000
		【雑収益】1,000
		【観光庁等における調査事業等】50,000,000

# (2) 支出

(2) 文田		
年 (年度)	総支出	内訳(具体的に記入すること)
2021 (R3)	76,429,506(円)	【一般管理費】8,745,578
年度		【広告宣伝費】9,605,134
		【インバウンド事業費】1,372,410
		【イベント事業費】2,687,554
		【物販販売事業費】4,264,989
		【駐車場事業費】16,135,651
		【その他事業費】33,618,190
2022 (R4)	89,301,103 (円)	【一般管理費】9,136,168
年度		【広告宣伝費】14,653,597
		【インバウンド事業費】1,563,059
		【イベント事業費】4,527,334
		【物販販売事業費】6,027,658
		【駐車場事業費】15,364,083
		【その他事業費】38,029,204
2023 (R5)	86,424,000 (円)	【一般管理費】8,837,000
年度		【広告宣伝費】7,948,000
		【インバウンド事業費】1,033,000
		【イベント事業費】3,388,000
		【物販販売事業費】6,390,000
		【駐車場事業費】15,057,000
		【その他事業費】43,770,000
		【観光庁等における調査事業等】13,357,000
2024 (R6)	90,618,000 (円)	【一般管理費】7,000,000
年度		【広告宣伝費】11,650,000
		【インバウンド事業費】3,300,000

		【イベント事業費】3,800,000
		【物販販売事業費】5,000,000
		【駐車場事業費】15,500,000
		【その他事業費】44,386,000
2025 (R7)	120,150,000 (円)	【一般管理費】6,000,000
年度		【広告宣伝費】11,650,000
		【インバウンド事業費】3,300,000
		【イベント事業費】3,800,000
		【物販販売事業費】5,000,000
		【駐車場事業費】15,500,000
		【その他事業費】30,300,000
		【観光庁等における調査事業等】50,000,000
2026 (R8)	120,150,000 (円)	【一般管理費】6,000,000
年度		【広告宣伝費】11,650,000
		【インバウンド事業費】3,300,000
		【イベント事業費】3,800,000
		【物販販売事業費】5,000,000
		【駐車場事業費】15,500,000
		【その他事業費】30,300,000
		【観光庁等における調査事業等】50,000,000

### (3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

- ・リフト券のチャージにかかる手数料事業を収入元として開始
- 富裕層向け高付加価値ツアー構築による財源確保を検討
- ・地域 CRM の観光 DX プラットフォーム構築により、OTA により流出していた手数料の DMO 財源化を検討
- ・企業版ふるさと納税の活用による運営資金確保の検討を実施
- ・宿泊税等の導入を視野に、地方税の活用検討を実施

### 8. 観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

- ・(一社) 野沢温泉マウンテンリゾート観光局では、野沢温泉村の主要産業である観光事業に対して、地域全体の事業者を巻き込みながらの取り組みを行うため、まちづくりとしての村の主要な事業を行うこととなる。
- ・よって野沢温泉村は、(一社)野沢温泉マウンテンリゾート観光局を野沢温泉村における地域 DM Oとして登録したいため、(一社)野沢温泉マウンテンリゾート観光局とともに申請する。

# 9. マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携 DMO (県単位以外) や地域 DMOと重複する場合の役割分担について (※重複しない場合は記載不要)

【他の地域連携DMOや地域DMOとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った(行っている)か】

・活動区域が重複する地域連携 DMOである(一社)信州いいやま観光局には、野沢温泉村も構成団体として参画している。定期的な会議や情報交換等を行うことで、各取組に対する意見交換を実施している。

### 【区域が重複する背景】

- ・地域連携 DMO (一社) 信州いいやま観光局では、北陸新幹線「飯山駅」を中心に半径20km圏にある 9 市町村 (飯山市・中野市・妙高市・山ノ内町・信濃町・飯綱町・木島平村・野沢温泉村・栄村) にまたがるエリアを「信州自然郷」として活動の区域としている。
- ・野沢温泉村への公共交通を利用したアクセスとしては、北陸新幹線「飯山駅」から、直通バスである野沢温泉ライナー(のざわ温泉交通)での来村がメインとなっており、飯山市を含めた地域連携は必須である。特にインバウンド観光客の多くの割合が新幹線を利用する。
- ・野沢温泉村としては、飯山駅を中心とした観光振興のため、地域連携 DMOの(一社) 信州いいやま観光局に構成員として参画している。

### 【重複区域における、それぞれのDMOの役割分担について】

- ・地域連携 DMOである(一社)信州いいやま観光局の事業としては、広域のサイクリングルート設定など、自治体の区域をまたいだ連携が必要な事業を主に実施している。そのうえで野沢温泉村も連携が必要となる事業に関して対応を実施している。
- ・地域 DMOである(一社)野沢温泉マウンテンリゾート観光局の事業としては、野沢温泉内での各事業者との対応、個別事業実施、イベント実施など、区域内における細やかな事業を実施する。
- ・JR飯山駅を軸とした、WaaS共創コンソーシアムの実証事業においては、双方の地方公共団体も交えた連携を実施した。

### 【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】

- ・飯山市と野沢温泉村においては、地域連携DMOの設立以前から、複数のイベントなどで相互連携 してきた歴史があり、自治体圏域を越えた活動を実施してきた。
- ・観光におけるMaaSの大きな変革期であり、JR東日本も含めた観光客に対するモビリティ検討について、飯山駅を中心としたエリアで検討する必要がある。1次交通から2次、3次交通、またパーソナルモビリティやアクティビティとしてのモビリティを含めた検討が地域特性を活かしたものとして期待できる。
- ・今後も地域連携DMOと地域DMOという組織体制となったうえでも、広域的な連携が必要となる 事業と地域に密着した事業という位置付けで、それぞれの役割分担の上で連携することにより、観光 客の様々なニーズに対応した効率的、効果的な活動の遂行が期待できる。

# 10. 記入担当者連絡先

担当者氏名	小田切 美幸					
担当部署名(役職)	(一社)野沢温泉マウンテンリゾート観光局					
	(野沢温泉観光協会 代表理事)					
郵便番号	〒389-2502					
所在地	長野県下高井郡野沢温泉村豊郷 9780-4					
電話番号(直通)	0269-85-3155					
FAX番号	0269-85-3883					
E-mail	miyuki@nozawakanko.jp					

# 11. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県·市町村名	長野県 野沢温泉村			
担当者氏名	笹岡 俊介			
担当部署名(役職)	野沢温泉村 観光産業課 商工観光係			
郵便番号	〒389−2502			
所在地	長野県下高井郡野沢温泉村豊郷 9817			
電話番号 (直通)	0269-85-3114			
FAX番号	0269-85-3803			
E-mail	0230@vill. nozawaonsen. nagano. jp			

都道府県·市町村名	長野県 野沢温泉村					
担当者氏名	小田切 美幸					
担当部署名(役職)	(一社)野沢温泉マウンテンリゾート観光局					
	(野沢温泉観光協会 代表理事)					
郵便番号	〒389−2502					
所在地	長野県下高井郡野沢温泉村豊郷 9780-4					
電話番号(直通)	0269-85-3155					
FAX番号	0269-85-3883					
E-mail	miyuki@nozawakanko.jp					

記入日: 令和7年1月10日

## 基礎情報

# 【マネジメント・マーケティング対象とする区域】

長野県、下高井郡、野沢温泉村

【設立時期】 令和5年1月23日(前身:平成26年~)

【設立経緯】

観光協会等の関係団体が複数あり、活動を統合できるDMO新設

【代表者】 小田切 美幸

【マーケティング責任者(CMO)】 小田切 翔一

【財務責任者(CFO)】 笹岡 俊介

【職員数】 18人【常勤8人(正職員4人・出向等4人)、非常勤12人】

【主な収入】

収益事業42百万 補助金34百万円 その他15百万円

【総支出】

事業費 約75百万円 一般管理費9百万円

【連携する主な事業者】

野沢温泉村(行政)、株式会社野沢温泉(スキー場運営等の地域観光 資源を活用した事業者)、野沢温泉旅館組合(宿泊事業者)、野沢温泉 商工会(小売等事業者)

# KPI(実績·目標)

※()内は外国人に関するもの。

項目		2021 (R3)年	2022 (R4)年	2023 (R5)年	2024 (R6)年	2025 (R7)年	2026 (R8)年		
旅行 消費額 (百万円)	目標	_	4, 500	4, 500	5, 000	5, 500	6, 000		
		_	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)		
	実績	2, 920	3, 687	4, 483					
		(-)	(-)	(-)			_		
延べ 宿泊者数 (千人)	目標	_	500	500	600	700	700		
		(-)	(-)	(10.0)	(20. 0)	(30.0)	(30.0)		
	実績	364	458	560					
		(1.1)	(-)	(-)					
来訪者 満足度 (%)	目標	_	88	89	99	99	99		
		(-)	(88)	(89)	(99)	(99)	(99)		
	実績	86	_	98. 5					
		(-)	(-)	(99.0)					
リピーター率 (%)	目標	_	_	65. 0	80.0	80.0	80.0		
		(-)	(-)	(65. 0)	(40.0)	(45.0)	(50.0)		
	実績	_	_	84. 6					
		(-)	(-)	(36.9)			_		

# 戦略

## 【主なターゲット】

- 欧米豪・アジアのスノーアクティビティ関心層
- ・東名阪を中心とした都市部のファミリー層、

アクティブシニア層

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】

スノーアクティビティ、温泉に限らない、四季の魅力を再整理・再発信することにより、ス ノーシーズンに頼らないオールシーズンのマ

ウンテンリゾートとしてブランディングを実施

【観光地域づくりのコンセプト】

水の谷の伝承-水と人が豊かに暮らす郷村-

# 具体的な取組

### 【観光資源の磨き上げ】

- ・温泉、雪、湧き水といった「水資源」として包括できる観光資源の特徴に着目したブランディング
- ・中長期滞在、リピーター増加を目指した、地域自然資源を活かしたコンテンツ造成
- ・食や祭り等の地域に根ざした文 化資源に着目した滞在の充実化 と、それら村民の営みに溶け込 み暮らすように旅ができる地域 の実現

## 【情報発信・プロモーション】

- ・区域内の団体ごとに実施している 情報発信・プロモーションの方針統 ーや役割分担の明確化
- ・ターゲット顧客への有効性に考慮 した情報発信・プロモーションの実 施

# 【村内事業者連携】

・観光DXへの取り組み等、社会変容を踏まえた対応への情報共有や連携



